

那覇市立病院 腎臓内科専門研修カリキュラム

1. 理念・使命

那覇市立病院は沖縄県南部医療圏における急性期中核病院として、腎臓疾患の診断・治療・予防において地域をリードする役割を担います。

本プログラムは、腎臓領域全般（慢性腎臓病、急性腎障害、糸球体疾患、尿細管・間質性疾患、腎血管疾患、水・電解質・酸塩基平衡異常、腎尿路感染症、腎代替療法）に精通し、自立して診療を行える専門医を養成します。

専門的知識・技能の修得に加え、医療倫理の遵守、医療安全の徹底、社会的責務の遂行を重視します。

科学的根拠に基づく診療（EBM）を実践し、最新の学術的知見を地域医療に還元します。

患者中心の全人的医療を行い、地域社会の健康増進に寄与します。

2. 専門研修の成果（アウトカム）

研修修了時には以下の能力を身につけます。

腎臓内科全領域における診断・治療方針を自立して決定・実践します。

急性期対応から慢性期管理、終末期医療まで包括的に提供します。

腎生検、透析導入、血液浄化療法、腹膜透析管理などの高度な手技を安全に行います。

他診療科、地域医療機関との円滑な連携を図り、地域全体の腎疾患医療水準を向上させます。

臨床研究、学会発表、論文執筆により腎臓病学の発展に貢献します。

高い倫理性と社会性を有し、医療安全の文化を組織内外に広めます。

3. 到達目標（知識・技能・態度）

3-1. 専門知識

腎疾患の解剖、生理、病態生理、疫学的特徴を理解します。

各疾患群の診断基準、病理像、治療方針、予後因子を習得します。

水・電解質・酸塩基平衡異常の病態と治療原則を理解します。

腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）の適応と管理方法を体系的に理解します。

3-2. 専門技能

腎生検（超音波ガイド下施行）、合併症予防と対応

透析導入および維持管理、緊急透析対応

血液浄化療法（CHDF、PMX、血漿交換）

超音波検査による腎評価、尿沈渣鏡検

腎疾患患者に対する包括的栄養管理・薬物療法の実施

3-3. 学問的姿勢

国内外の最新ガイドライン・エビデンスを診療に活用します。

臨床研究を計画・実施・発表します。

3-4. 医師としての倫理性・社会性

医療倫理と患者権利の尊重

医療安全管理・感染対策の徹底

チーム医療における協調性とリーダーシップ

地域住民への啓発活動・予防教育への参画

4. 経験目標

入院症例 140 例以上（7 疾患群で各 50%以上）

外来症例 60 例以上（7 疾患群で各 50%以上）

5. 研修方法

カリキュラム制で計画的に研修を行います。

外来・入院診療、救急対応を通じて多様な症例を経験します。

症例検討会、抄読会、CPC、合同カンファレンスで学際的視点を養います。

腎生検や血液浄化療法は見学→助手→術者の順に段階的習得します。

J-OSLER-JIN に症例登録し、指導医によるフィードバックを受けます。

6. 学術活動・自己研鑽

日本腎臓学会などの学術集会に年 1 回以上参加します。

学会発表または論文発表を筆頭または共著で 2 件以上行います。

医学生・初期研修医への教育指導を行います。

院内・地域での啓発活動に参画します。

7. 評価

形成的評価

指導医が日常診療や学術活動の過程を随時評価します。

半期ごとに面談を行い、到達度・課題・改善点を明確にします。

総括的評価

年 1 回、研修管理委員会が症例数・技能・態度・学術活動を総合評価します。

不足がある場合は補充研修を実施します。

8. 専門研修施設の要件

腎臓内科病床 20 床以上、腎臓専門医 2 名以上常勤

外来・入院・救急診療の全領域に対応

血液透析・腹膜透析・腎生検を常時実施可能な設備を有すること

9. 研修制度の運用要件

研修進捗はカリキュラムに沿って記録・管理します。

症例記録・技能評価・学術活動記録を定期的に確認します。

年 1 回プログラム全体の見直しを行います。

10. 専門研修を支える体制

カリキュラム統括責任者（正）：上原 圭太

カリキュラム統括責任者（副）：上間 貴仁

指導医は全員、日本腎臓学会認定専門医資格を有します。

11. 専攻研修方法の評価と改善

年次評価結果をもとにカリキュラムを改訂します。

専攻医アンケートや症例傾向分析をもとに教育環境を改善します。

12. 専攻医の採用と研修修了

採用は書類審査・面接により選考します。

修了は総括的評価で全要件を満たし、研修管理委員会の承認を得た場合に認定します。